

宗岡二中だより 6月号



令和5年6月1日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

アンサンング・ヒーロー(unsung heroes/heroines)

校長 伊藤大輔

中学校は、市民そして公民としての素養を身に付ける最終段階です。社会性といってもいいでしょう。卒業と同時に、社会人としての責任が生まれます。そこで、勉強の他にも人間として大切なことが、どれほどたくさんあるかを中学校では学ぶのです。

体育祭をはじめとする学校行事もそうした機会です。机に座っているだけでは味わえない無理難題に挑む機会です。例えば「〇組全員でひとつの応援パフォーマンスを完成する」という課題を解決するにも、仲間とともに最適解を探らねばなりません。その過程の中であって、仲間を助け、仲間に助けられ、仲間の心に寄り添い、仲間との絆の大切さを学ぶことになるのです。

大きな行事の季節になると「アンサンング・ヒーロー」という言葉を思い出します。「その功績が歌に歌われて、称えられることのない英雄」という意味です。日本語には「縁の下の力持ち」という、似たような言葉があります。しかし言葉の背景を探ると、意味の違いを感じるはずです。

「アンサンング・ヒーロー」は、たいへんな功績をあげただけけれど、人々はそのことを知らない隠れた英雄のことです。実際に、歴史上そういう人はたくさんいました。その人たちの目に見えない気づかいのおかげで、多くの人が、多くの街が、多くの文明が救われた。でも、その人を「英雄」として称える歌は誰も歌わない。だれも知らないからです。

ある人が村のはずれの川沿いの道を歩いていたら、堤防に小さな穴が開いていました。そこからちよろちよろと水が漏れています。そこで、小石を拾って、その穴に押し込むと、水が止まりました。しばらくして大雨が降った時に、その堤防は崩れず、村は水没を免れました。でも、その人は自分が押し込んだ石が堤防の決壊を防いだことを知りませんし、村人たちもその人が村を救ったことを知りません。

こういうことは、日常生活のあらゆる場面に存在しています。街がゴミであふれないのは、人知れず清掃したり、ゴミを回収したりする人がいるからです。

雪が降った朝、安全に通行できるのは、早起きして雪かきをする人がいるからです。

学校の日常にも存在します。換気のために、毎朝廊下の窓を開けてくれる人がいます。校内の草木を伸びるまえに刈ってくれる人がいます。落ちた画鋲を拾って、掲示物を整えてくれる人がいます。流しの排水溝を毎日丁寧に掃除してくれる人がいます。放課後の教室の机を黙々と整頓する人がいます。体育祭当日の朝、ぬかるんだグラウンドに砂を入れて整備する人がいます。

こうした行為は、「感染症が広がる、ケガをする、施設面のトラブルが起こる、秩序が乱れる」といったリスクを減らします。これを請け負うのが「アンサンング・ヒーロー」です。誰かがしなければいけないことがあったら、それは自分の仕事だと考える人、そして行動に移す人です。

この人がいたから誰も不快な思いをせずに済みます。しかし誰もその事に気をとめたり、感謝したりもしないし、気付きもしません。当の本人も見返りを求めたり、ましてや自分がやったとアピールしたりすることなどしません。純粋に人の役に立つ事をよしとしているのです。

残念ながら「アンサンング・ヒーロー」になるよりは、何かが起きた後に、手際よくそれを処理してみせて、拍手喝采してもらおうほうが得だと考える人もいます。個人的には寂しい思いがします。仕事は自分の評価を高めるためだけにするものでしょうか。私はちがうと思います。仕事とは、ときに理不尽な思いや納得いかない思いもしつつ、みんなのため、社会のために貢献するなかで、自分の価値を高めていく営みであるはずで

体育祭の取組をきっかけに、「アンサンング・ヒーロー」を意識してみませんか。そのひとはあなたの隣にいてもかもしれません。あなたの家族の中にもいてもかもしれません。もしかしたらあなた自身かもしれません。宗二中生には、その存在に気付き、大切にし、大いに認める感性があると信じます。